

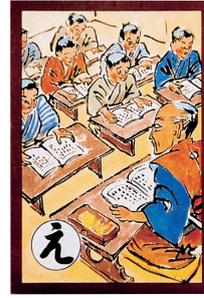
～郷土かるたで故郷発見～

た。暖冬の年には、わざわざ霧ヶ峰清水まで登って作ったと言われる。廃藩後は氷餅部屋で技術を覚えた人たちによって、その製法が受け継がれ、これに新しい技術を加え今なお続いている。このほか諏訪で寒気を利用しての産業に、寒天・凍豆腐がある。寒天は茅野を中心に製造され低温・無風・乾燥・水利などの条件が整って大きく発展した。諸国から集まってきた「天屋小僧」といわれた人たちの手によって冬の副業として寒天造りは盛んになった。また凍豆腐はしみ豆腐ともいわれ、専用に作られた豆腐を凍らせて、それを清水でとかして乾燥させたものであった。



し 將軍に献上品の凍餅

高島藩からは、毎年將軍家に献上する凍餅が、ものしい行列を仕立てて甲州街道を進んでいた。凍餅は高島藩の特産物であり、藩直営の氷餅部屋が城内にあって、庶民がこれを生産することは許されなかった。厳しい寒波を利用しての風土産業であった。



え 英才の生まれた藩学長善館

幕府が昌平校を開いて学問を奨励したのにならって、それぞれの藩も藩学を設けた。諏訪高島藩の長善館もその一つであった。享和三年（一八〇三）二之丸騒動がおさまって、諏訪大助の屋敷跡二之丸に作られた長善館は、儒学を中心にして藩士の子弟を教育した。儒学の石垣南陵、弓術の稲垣半蔵、砲術の坂本八弥などが教授・師範であって、朱子学が中心であった。子弟は八歳から三十歳まででそのうち三、四十人は寄宿舎に收容し、通学は百七、八十人にのぼったという大きな学校であった。長善館の名の由来は「善なるに長じ、足らざるを補う」という語からとったものであった。掲げた額は松平定信が揮毫してくれたものという。長善館からは幾多の秀才や英才が輩出して医師となり国学者となり、経世の政治家となった。維新後、長善館は旧藩主の好意で東京に移され、諏訪から東京に出て勉学する人たちの宿舍となって今日まで続いている。

諏訪のいろはかるた (10)

全国各地に存在する郷土かるた。多くは絶版となり現在では入手が困難です。ふるさとの財産「諏訪いろはかるた（信濃文化研究会作成）」に詠われたかるたを紹介します。

冬を楽しむ! ~氷上祭~

氷上ボーリング

そり引きゲーム

げた スケート体験

冬を楽しむ! ~氷上祭~

障害物競走

じゃんけん スケートイング

3月の暦 節分祭

山崎義雄 作

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

【写真提供（表紙）】
※諏訪の野鳥グループ代表
阿部正則さん（東町中1）

今月のおすすめ本

暮らしのヒント集2 暮らしの手帖社

松浦弥太郎 著

おひな様は形代（かたしろ）といって、女の子に降りかかる禍（わざわい）や穢れ（けがれ）を代わりに引き受けてくれる人形です。元気に育ってほしいと願う心がおひな様には込められているのです。

小学生のかりんは、おばあちゃんから古い雛人形を譲り受けます。ところがおひな様たちは夜になると動き出すのです。そして、かりんはおひな様たちと友達になります。ところが、五人ばやしは笛がなくなってしまうました。

かりんは笛を探しますが、できるでしょうか。

（井上喜久美）

かりんちゃん十五人のおひなさま 借成社

なかがわ ちひろ作絵